

事例研究報告

寄宿舎で生活する特別支援学校中学部生徒が消灯後、自室で過ごす事ができることを教える

生徒の実態

- 知的障がいがある中学部の男子
- 寄宿舎での就寝時間帯に何度も部屋から出てくる。
- 部屋から出てくる度に寄宿舎指導員が部屋に戻るよう
に指導していた。
- 就寝時間帯の電気を消さなければいけない時間帯に、
電気のスイッチを何度も付ける。
- 寄宿舎指導員は、その度電気を消すように指導した。
- このような行為が、頻繁に行われていた。

寄宿舎指導員の考え

「就寝時間は部屋で過ごしてほしい」

「他の寄宿舎生への迷惑行動を減らしたい」



アドバイザーからの助言

「問題行動」に注目するよりも

**環境設定をし、
支援の方法を統一**

共通理解を図ることから始めま
しょう。



指導目標の見直し

アドバイザーの先生から助言を受け、環境設定と支援の方法を統一して指導を開始することを考えました。

【長期目標】

消灯後、朝まで何度も起きてくることなく自室で過ごす。

【短期目標】

消灯後、自室で過ごす事ができる。

【指導目標】

朝まで自室で過ごす。

指導1

【対象児】

中学部3年生

【指導場面】

消灯後～起床後(21:00～7:00)

【想定される般化場面】

舎室が変わっても変わらず眠れる。

【教材】

就寝時間のルールの提示(文字と絵・写真)

指導1の手続き

- ・環境設定について

21:00～7:00の間は舎室の鍵を閉める。

舎生が飛び出したり怪我をしないように室内環境を補強する。電灯をつけたり消したりして遊ばないようにブレーカーを落とす。

- ・支援について

21:00～7:00の間は本人の外に出たい意思表示や、物音がしても舎室の鍵は開けない。

夜中トイレに行きたくなる可能性を考慮し、定時排泄を1回(0:30～1:00)行う。

記録方法と記録

21:00～7:00の間、カメラで動画を撮る。
 ドアをガチャガチャする等の行動について記録を取る。

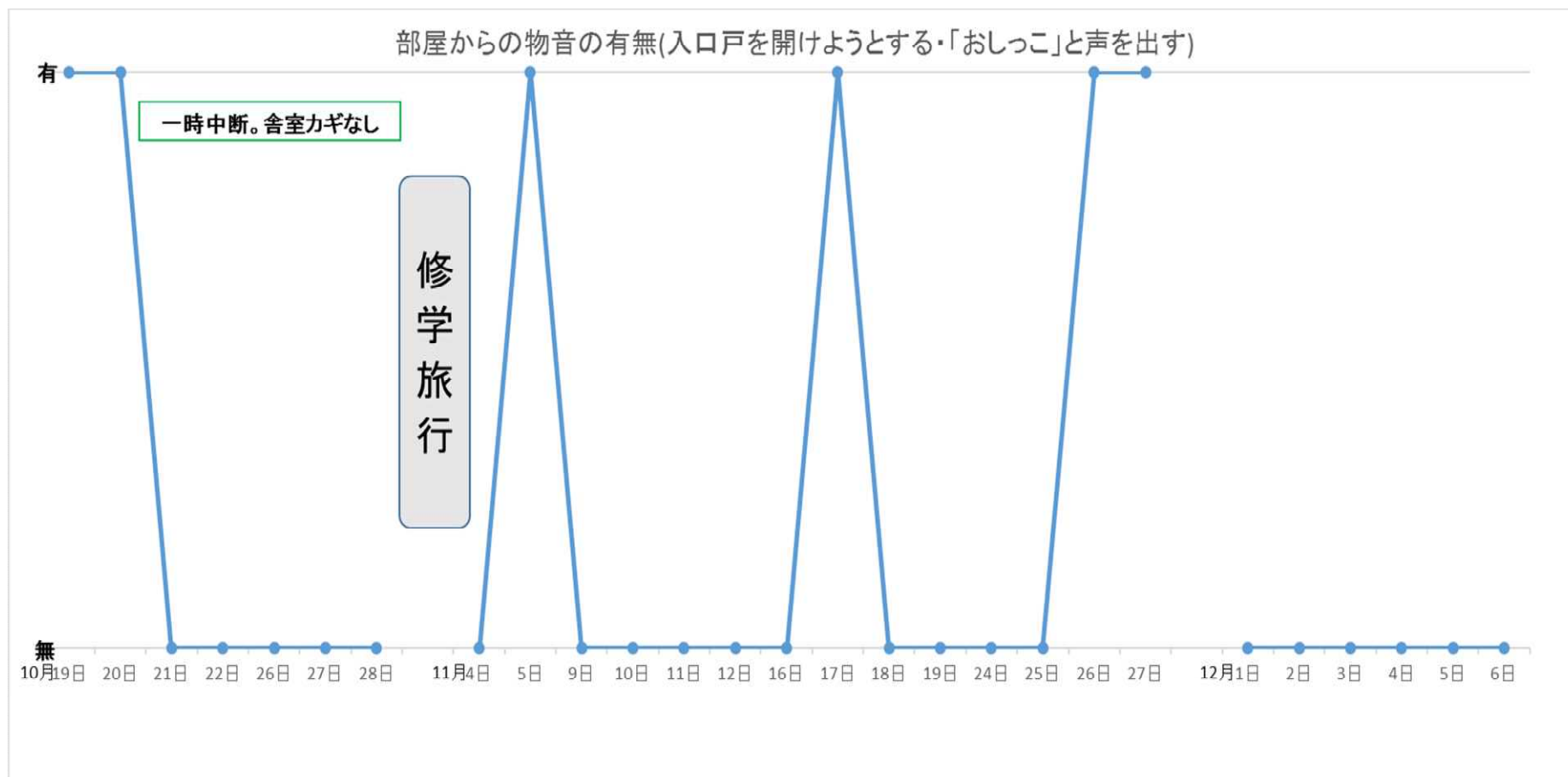
行動記録チェック表

月 日 ()

記録者()

	【排尿】	有	無		【排便】	有	無
排泄・就寝支援, 施錠 20:50～21:00	<排泄支援時の特記事項>						
	<就寝支援時の特記事項>						
	<施錠時の特記事項>						
観察記録 21:00～22:00	特記事項						
22:00～23:00							
23:00～0:30							

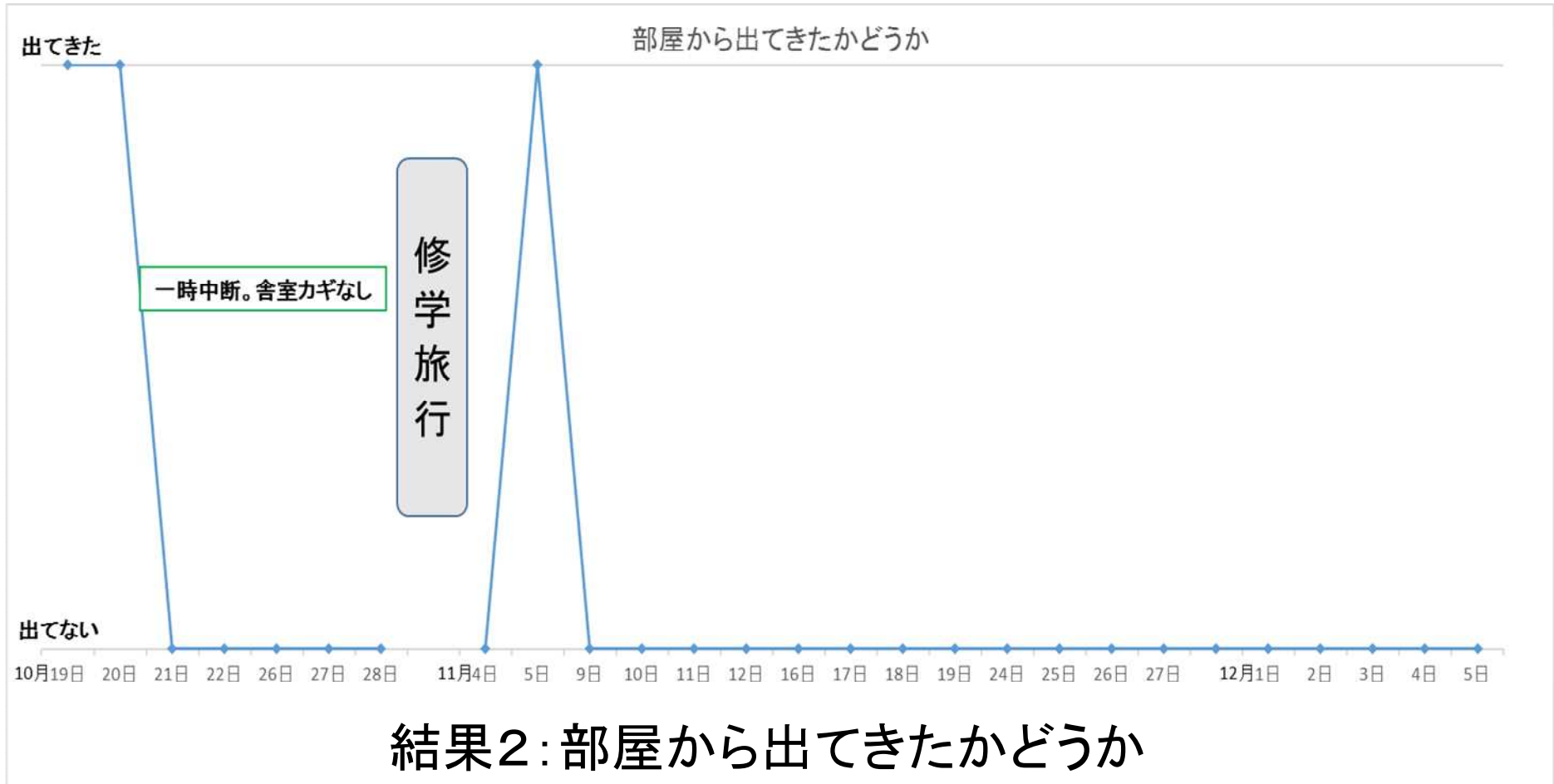
指導1の成果



結果1: 部屋からの物音の有無

指導1の成果

鍵のかかった部屋では、ほとんどの時間布団の中で静かに過ごしました。定時排泄時などで部屋の鍵が開いても、急いで出てこようとすることはありませんでした。毎日、布団をできるだけ隅に寄せるなど、自分で工夫して寝るようになりました。



ここが成功のポイント



○支援開始前の環境整備を行った。

○環境設定後に、寄宿舍指導員同士で支援方法を統一し、指導の一貫性を図った。